



## 2012年3月期第2四半期決算説明資料

2011年11月

2012年3月期第2四半期決算報告 P. 3

2012年3月期連結業績予想 P. 10

参考資料 P. 12

## 2012年3月期第2四半期決算報告



# 連結損益計算書

## ポイント

- 売上高・営業利益 石炭生産事業における石炭価格の上昇により増収、増益。
- 特別利益 当期に投資有価証券売却益2,177百万円計上。
- 四半期純利益 第2四半期決算では過去最高益。

(単位：百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	対前期比較
	金額	金額	増減額
売上高	45,407	48,017	2,610
営業利益	1,198	2,874	1,676
営業外収益	150	118	▲31
営業外費用	221	119	▲101
経常利益	1,127	2,874	1,746
特別利益	1,074	2,375	1,301
特別損失	77	214	136
税金等調整前四半期純利益	2,123	5,035	2,911
法人税、住民税及び事業税	493	1,499	1,005
法人税等調整額	44	152	108
四半期純利益	1,585	3,383	1,797

# 連結セグメント情報

## ポイント

- 燃料（石炭販売・生産）事業 詳細は、次ページ「燃料（石炭生産・販売）の内訳」に記載。
- リサイクル・合金鉄事業 営業利益：本格操業への移行遅延により259百万円の営業損失（前期は475百万円の営業損失）

## 【売上高】

事業名 (単位：百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	対前期比較 増減額
燃料 (石炭販売)	39,233	40,931	1,697
燃料 (石炭生産)	6,962	9,118	2,155
建機材	1,602	1,693	90
不動産	257	256	▲1
リサイクル・ 合金鉄	240	334	93
その他	1,490	1,401	▲89
消去	▲4,379	▲5,716	▲1,336
合計	45,407	48,017	2,610

## 【営業利益】

事業名 (単位：百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	対前期比較 増減額
燃料 (石炭販売)	139	64	▲75
燃料 (石炭生産)	1,612	3,162	1,550
建機材	▲105	▲91	13
不動産	31	20	▲11
リサイクル・ 合金鉄	▲475	▲259	216
その他	▲22	▲33	▲11
消去	18	12	▲6
合計	1,198	2,874	1,676

※「その他事業」には、研修事業、スーパーマーケット事業及び港湾事業等を含んでおります。

※売上高は、セグメント間取引消去前の売上高を表示しております。

# 燃料（石炭販売・生産）事業の内訳

## ポイント

- 石炭販売 東日本大震災の影響から販売数量が減少したものの、石炭価格の上昇により売上高増加。販売数量が落ち込んだことなどにより営業利益減少。
- 石炭生産 石炭価格の上昇、さらにリデル炭鉱の操業が順調に推移し、生産数量の増加と共に販売数量も増加したことにより売上高、営業利益増加。

## 【売上高】

(単位：百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	対前期比較 増減額
石炭販売	39,233	40,931	1,697
販売数量	336万ト	327万ト	▲9万ト
石炭生産	6,962	9,118	2,155
販売数量	76万ト	81万ト	5万ト
消去	▲4,333	▲5,673	1,339
燃料事業合計	41,862	44,376	2,513

## 【営業利益】

(単位：百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	対前期比較 増減額
石炭販売	139	64	▲75
石炭生産	1,612	3,162	1,550
消去	—	—	—
燃料事業合計	1,751	3,226	1,475

【主要指標】		2011/3期2Q実績	2012/3期2Q実績
石炭販売 (9月決算)	石炭輸入販売平均価格	11,675 円	12,502円
	為替 円/US\$ (実行平均レート)	88.86 円	79.56 円
石炭生産 (6月決算)	石炭平均価格 一般炭	US\$ 87.21	US\$ 116.33
	石炭平均価格 非・微粘結炭	US\$ 122.70	US\$ 183.10
	為替 US\$/A\$ (実行平均レート)	US\$ 0.8734	US\$ 1.0326
	為替 円/A\$ (期中平均レート)	81.65 円	84.66円

※ 石炭生産…12月決算(第2四半期…1-6月)、石炭販売…3月決算(第2四半期…4-9月)

## ■ 燃料(石炭販売)事業

- 豪州リデル炭鉱をはじめ、カナダ、インドネシア等から多様な銘柄の石炭を輸入し、日本国内の鉄鋼・電力・一般産業(セメント等)の優良需要家に販売。
- 近年は販売数量の増加、石炭価格の上昇により、当社売上高の約85%を占める。
- 石炭価格、販売数量、為替(US\$⇒円)の影響が当社売上高にインパクトを与える。

## ■ 燃料(石炭生産)事業

- 海外子会社を通じて、オーストラリア リデル炭鉱を操業、権益の32.5%を保有。
- 近年の生産数量の拡大と石炭価格の上昇に伴い、当社の大きな収益源である。
- 石炭の代金決済はUS\$建で行なわれ、豪州子会社にてA\$に転換、更に連結決算に組込む際には円に換算するため、2度為替の影響を受ける。(近年のUS\$に対するA\$高の進行は減収要因となる)
- 石炭価格、生産数量、為替の影響が当社収益にインパクトを与える。

# 連結貸借対照表

	2011/3月末		2011/9月末		増減額 (百万円)	主な増減要因
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		
流動資産	17,677	36.1	19,894	39.6	2,216	現金及び預金1,529 棚卸商品413
固定資産、繰延 資産	31,345	63.9	30,314	60.4	▲1,030	有形固定資産+154 投資有価証券▲1,242
資産合計	49,022	100.0	50,208	100.0	1,186	
流動負債	9,262	18.9	10,034	20.0	772	仕入債務1,319
固定負債	15,508	31.6	13,868	27.6	▲1,640	長期借入金▲1,018 社債▲185
負債合計	24,770	50.5	23,902	47.6	▲868	
純資産合計	24,251	49.5	26,305	52.4	2,054	四半期純利益+3,383、為替換算+739 支払配当金▲554、有価評価差▲1,708
負債・純資産計	49,022	100.0	50,208	100.0	1,186	



# 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)	2011/3期 2Q	2012/3期 2Q	増減額	主な要因(2012/3期 2Q)
税金等調整前当期純利益	2,123	5,035	2,911	
運転資金	▲447	969	1,416	・仕入債務の増加による増加
その他	▲1,065	▲3,427	▲2,361	・法人税等の支払による減少
営業活動によるC/F	610	2,577	1,967	
固定資産の増減	▲3,378	▲660	2,717	・三井松島オーストラリアにおける機械装置等の購入による減少
投資有価証券の増減	1,197	1,019	▲178	・三井松島インターナショナルにおける投資有価証券の売却による増加
その他	▲493	13	506	
投資活動によるC/F	▲2,674	371	3,046	
借入金・社債の増減	▲713	▲1,164	▲450	・長期借入金の返済及び社債の償還による減少
配当金の支払	▲546	▲547	▲1	
その他	▲9	▲9	0	
財務活動によるC/F	▲1,270	▲1,721	▲451	
現金及び現金同等物換算差額	▲195	294	490	
現金及び現金同等物の増減額	▲3,530	1,522	5,052	
現金及び現金同等物の期首残高	13,794	11,524	▲2,270	
現金及び現金同等物の期末残高	10,264	13,046	2,782	

## 2012年3月期連結業績予想



# 2012年/3月期 連結業績予想

(修正の理由)

為替動向や景気の先行きが不透明なことなどから、上期実績を踏まえ下期の前回予想数値を据え置いたうえで予想しております。

この結果、売上高は、上期の減収により予想を下回る見込みではありますが、営業利益、経常利益及び当期純利益は、前回予想数値通りとしております。

(単位:億円)	2012/3期(通期) 業績予想		増減額
	11年8月11日公表	11年11月11日修正	
売上高	1,060	1,000	▲60
営業利益	49	49	—
経常利益	49	49	—
当期純利益	47	47	—

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果になる可能性があります。

## 參考資料

---

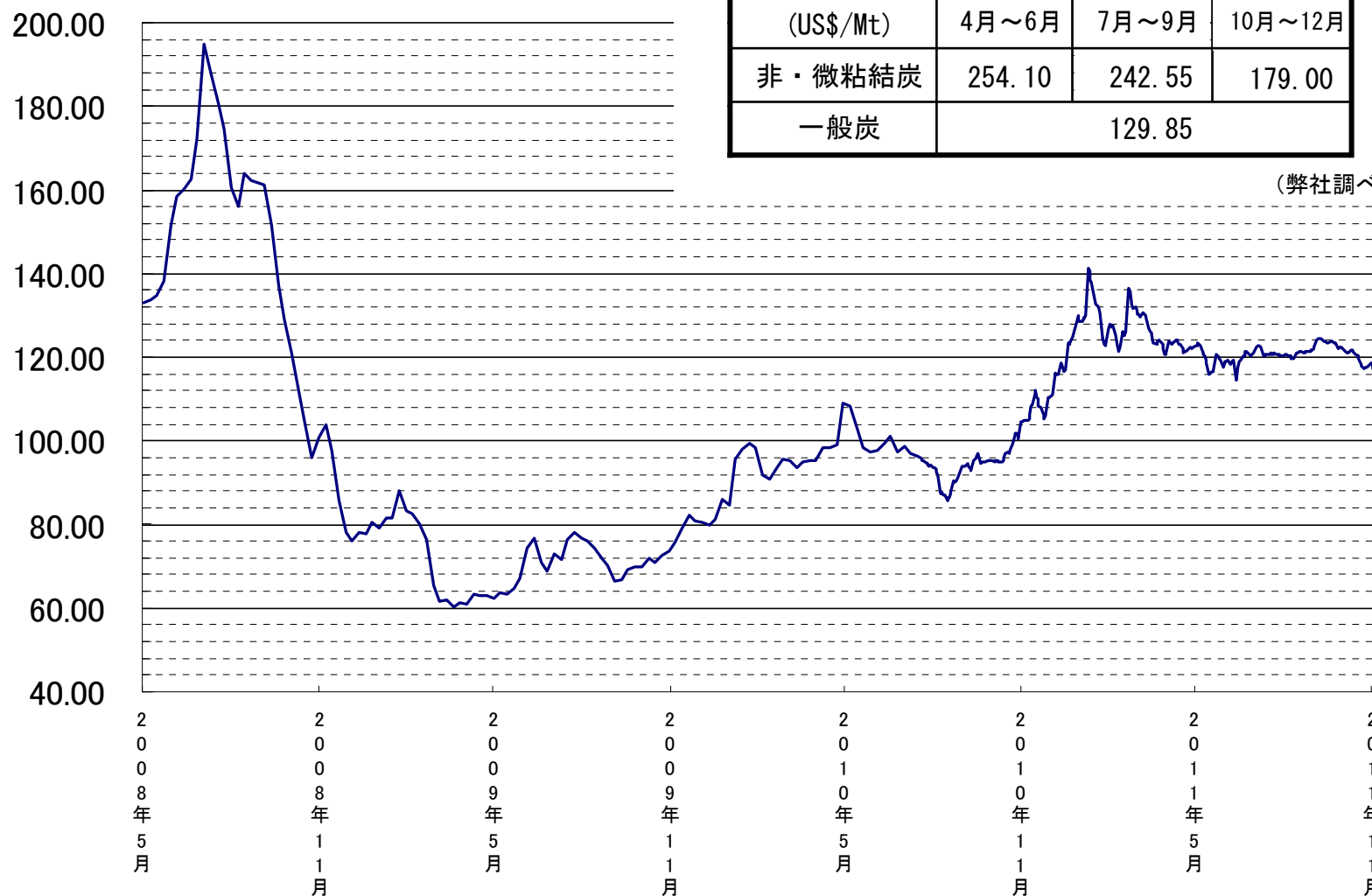
# 石炭マーケット状況

■ 「global COAL」 INDEX オーストラリア ニューキャッスル港積 標準品位一般炭指標の推移  
(US\$/Mt) ※global COAL・・・石炭関連電子商品取引所

FY2011石炭価格

(US\$/Mt)	4月～6月	7月～9月	10月～12月
非・微粘結炭	254.10	242.55	179.00
一般炭	129.85		

(弊社調べ)



■ 石炭は用途によって、原料炭と一般炭に区分されます。

## 1. 原料炭

製鉄（鉄を作る）の原料として使用されます。

製鉄は主として鉄鉱石とコークスを原料とし、高炉において行われます。

純粋な鉄を作る為には鉄鉱石から鉄分のみを取り出す必要がありますが、鉄鉱石中の鉄分は酸素と結びついた酸化鉄の状態です。鉄鉱石中に存在します。

コークスはその酸化鉄から酸素を除去（還元反応といいます）し、高炉の中で還元反応を起こさせるための熱源として重要な役割を担っています。

品質的にコークスの原料となる石炭が原料炭と呼ばれています。コークスは原料炭をコークス炉で蒸し焼き（乾留）して作られます。

## 2. 一般炭

発電やセメントの生産などに使用されます。

発電・・・石炭を燃やして蒸気を発生させて発電機を駆動し発電します。

セメント・・・主原料の石灰石などととも石炭を巨大な回転窯に投入して高温で焼成し、セメントクリンカを生産します。これを破碎し石膏を加えることでセメントが出来上がります。石炭は焼成用の熱源になります。

■ 石炭は、太古の植物が地中に埋没し地圧や地熱の影響を受けて長い年月をかけて変化して出来たものです。

生成年代や産地によってその品質が異なってきます。

ここで、原料炭と一般炭でそれぞれ要求される品質の違いを一つの例（本来、要求される品質は多岐に亘ります）を挙げて説明します。

原料炭には、コークスとなった時に堅くて強度が高いものが適しています。コークスには還元剤及び熱源としての役割があり、また高炉内の通気性を確保する必要があるためです。

一般炭には、発電効率を高めるために高発熱量の石炭が求められる傾向にあります。


また、ボイラー内に石炭灰が固着するのを防ぐために灰の融点が高い性質をもったものが適しています。

---

本資料の将来の業績に関わる記述等については、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、変化する可能性があることにご留意下さい。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行ってください。また本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

IR問い合わせ先

総務部 TEL 092-771-2171

 **三井松島産業株式会社**